

## 第2章 いわき市自治会における問題の所在

### 2.1 はじめに

1章では主に情報発信と共有の現状・評価・期待について、会長が住まう世帯別に分析を行ってきた。本章では自治会とその活動全般について、自治会を活動と会長の二つの資源＝リソースの総体と見なし、自治会を活性化させるためのインプット→リソースの要因を探ることとする。具体的には、既存の青森市、秋田市、山形市、仙台市、福島市、盛岡市の6つの自治会・自治会調査の再分析を行い、4つのセグメントを示した松本・吉原（2009）、松本（2010）、松本（2011）と同様な操作をいわき市調査にも行う。

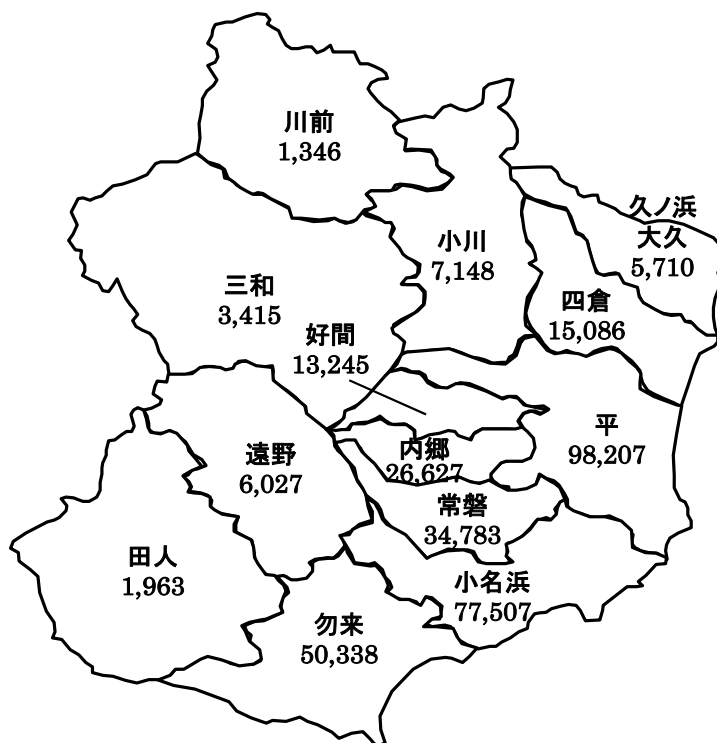


図2-1 いわき市各支所のプロフィール(筆者作成:2011年3月1日現在)

ちなみに本調査によりいわき市内13支所482自治会を対象にアンケート調査を実施し、259自治会の有効回答が得られている。因みに支所についての概要は図2-1のようになる。

支所別の回答構成比であるが、平23.6%、小名浜22.0%、勿来11.2%、常磐7.3%、内郷1.5%、四倉11.6%、遠野1.9%、小川6.9%、好間3.1%、三和2.7%、田人1.5%、川前2.7%、久之浜・大久3.5%、不明0.4%であった。

## 2.2 自治会をリソースで捉える

以下で論じる自治会をリソースで捉える考え方と変数の操作方法について、松本・吉原(2009)を用いて説明する(これらの記述は松本(2011)と同じである)。

		活動個数		
		多	中	少
組織・団体 個数	多	1	3	6
	中	2	5	8
	少	4	7	9

		活動個数× 組織・団体個数		
		多	中	少
加入世帯 数	多	1	3	6
	中	2	5	8
	少	4	7	9

図 2-2-1 セグメントの考え方

まず、自治会の「活動個数」と「組織・団体個数」を「多」「中」「少」の3つに分けて、図 2-2-1 の左側にある9つのセグメントをつくる。それを「活動個数×組織・団体個数」の合成変数と見なし、「多」「中」「少」をそれぞれ「1 or 2 or 3」「4 or 5 or 6」「7 or 8 or 9」として、この変数と「加入世帯数」によるマトリックスを作成する(図 2-2-1 の右側)。この「活動個数×組織・団体個数」×「加入世帯数」における「多」「中」「少」をそれぞれ「1 or 2 or 3」「4 or 5 or 6」「7 or 8 or 9」にして、以下の3つの活動リソース・セグメントとする。

### (1) 自治会活動リソース

まずは活動リソース分布から確認する。いわき市の活動リソースは、多:18.5%、中:26.3%、少:53.3%、不明:1.9%である。

次にリソース別で見た自治会発足時期であるが(表 2-2-1)、全体では1940年代以前に発足した自治会が多い。リソース別で見ると、「多」であるのは「60年代」(12.5%)の高度経済成長期に発足した自治会や新興住宅地が形成された「80年代」(16.7%)である。因みに以下では▲▼:1%有意、△▽:5%有意、↑↓:10%有意、∴∴:20%有意としてファイディングを行う。

表 2-2-1 自治会の発足した時期

	調査数	自治会発足時期							わからない
		1940年代 以前	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	
合計	259	49.0	6.2	6.9	4.2	5.8	3.5	2.3	19.7
多	48	45.8	6.3	∴ 12.5	2.1	▲ 16.7	▲ 10.4	4.2	▼ 2.1
中	68	48.5	∴ 1.5	10.3	7.4	5.9	2.9	-	22.1
少	138	50.7	8.0	↓ 2.9	3.6	↓ 2.2	∴ 1.4	2.9	∴ 24.6

それでは現在、自治会はどのような目的があるのだろうか(表 2-2-2)。「住民同士の親睦」(79.2%)が一番多く、次いで「生活上の問題を共同解決」(77.6%)であり、いわき市における自治会の位置づけは、他の市と同様に住民同士の交流を通じて問題解決を図る場と捉え

られていることがわかる。リソース別で見ると、「多」の自治会で特徴的なのは「住民同士の親睦」(91.7%)、「生活上の問題を共同解決」(87.5%)や「マンション・団地の管理組合」(6.3%)であり、活動リソースが高い自治会ほど、親睦の他に問題解決という高度の機能を求めているといえる。

表 2-2-2 自治会の主な目的

	調査数	現在の主な目的						
		住民同士の親睦をはかるため	町内の生活上の問題を共同解決するため	行政等への働きかけ・陳情のため	行政等との連絡・調整のため	共有地、共有施設の管理のため	マンションや団地の管理組合として	その他
合計	259	79.2	77.6	78.0	83.0	33.6	2.3	2.3
多	48	△ 91.7	↑ 87.5	85.4	77.1	41.7	↑ 6.3	4.2
中	68	82.4	80.9	83.8	86.8	33.8	-	1.5
少	138	∴ 74.6	∴ 72.5	∴ 73.2	84.1	30.4	2.2	1.4

いわき市の自治会への世帯加入率について確認する(表 2-2-3)。「全戸加入」は 32.8%であり、3割程度と低い。加入率の全体平均(注:回答者ベースで集計)は 91.9%である。

リソース別にみると、「多」で特に多いのは「90%以上」(52.1%)であり、むしろ「全戸加入」(16.7%)は全体平均よりも小さいことがわかる。一方で「少」は「全戸加入」(40.6%)が一番多く、全戸加入自治会で活動リソースが少ないという傾向は他市と同様である。「中」のボリュームゾーンが「90%以上」(33.8%)であることを考慮すると、加入への強制力が大きくなるにつれて、自治会活動への意欲が低下することを示している。

表 2-2-3 自治会の世帯加入率

	調査数	自治会への世帯加入率							世帯加入率	
		全戸加入	90%以上加入	70~90%加入	50~70%加入	30~50%加入	30%未満	わからない	調査数	平均
合計	259	32.8	39.4	18.1	3.9	0.4	0.4	2.7	246	91.91
多	48	▽ 16.7	↑ 52.1	20.8	4.2	-	-	2.1	45	91.00
中	68	30.9	33.8	22.1	5.9	∴ 1.5	-	∴ 5.9	64	∴ 90.08
少	138	↑ 40.6	38.4	15.9	2.9	-	0.7	1.4	136	93.05

自治会を構成している住居形態をみると(表 2-2-4)、全体で一番多いのは「一戸建て」(81.9%)、次いで「集合住宅(家族向け)」(20.8%)である。リソース別の特徴は、「多」で「集合住宅(家族向け)」(41.7%)や「集合住宅(単身向け)」(12.5%)、「中」で「事業所」(13.2%)、「少」についてはほぼ平均的な分布であった。

表 2-2-4 自治会における建物・土地の特色

	調査数	建物・土地の特色							
		一戸建て	田畑	集合住宅(家族向け)	商店	事業所	集合住宅(単身向け)	工場	その他
合計	259	81.9	31.3	20.8	8.5	7.7	5.4	3.1	5.4
多	48	87.5	↓ 18.8	▲ 41.7	12.5	6.3	△ 12.5	6.3	4.2
中	68	86.8	35.3	23.5	5.9	↑ 13.2	7.4	4.4	4.4
少	138	79.7	34.8	▽ 13.0	8.7	5.8	▽ 1.4	1.4	6.5

表 2-2-5 自治会における人口変化

	調査数	最近10年間くらいの人口の変化					
		大いに増加	やや増加	あまり変化はない	やや減少	大いに減少	その他
合計	259	4.2	12.0	29.3	37.5	13.5	-
多	48	▲ 14.6	△ 22.9	25.0	31.3	↓ 4.2	-
中	68	4.4	11.8	↑ 39.7	33.8	10.3	-
少	138	▽ 0.7	8.7	26.1	∴ 42.8	↑ 18.8	-

自治会内の人口変化をみると(表 2-2-5)、「大いに+やや増加」は16.2%である。リソース別では、「多」の自治会で増加傾向(「大いに+やや増加」37.5%)である一方で、「少」では減少傾向(「大いに減少」18.8%)にあり、これも他の市と同様に新たな構成員の流入が自治会活動の活性化につながっている傾向が見受けられる。

表 2-2-6 自治会における新旧住民の割合

	調査数	新旧住民の世帯数の割合				
		古くからの地付きの世帯がほとんど	古くからの地付きの世帯のほうが多い	同じくらい	外からの新しい世帯のほうが多い	外からの新しい世帯がほとんど
合計	259	34.4	28.6	12.0	13.5	8.1
多	48	∴ 25.0	22.9	↑ 20.8	14.6	△ 16.7
中	68	↓ 23.5	↓ 19.1	∴ 17.6	▲ 29.4	8.8
少	138	△ 44.2	↑ 35.5	▽ 6.5	▼ 5.8	∴ 4.3

新旧住民の割合については(表 2-2-6)、いわき市全体では「古くからの地付き世帯がほとんど+古くからの地付きの世帯のほうが多い」(36.6%)であるなかで、リソースが「多」の自治会では「古くからの地付き世帯がほとんど(3.7%)」が全体よりも少ないが、「少」では12.8%

と多い。このことからいわき市も「古くからの地付き世帯」が多い自治会よりも、「外からの新しい世帯」が多い自治会は活動リソースが「多」であることがわかる。構成員にある程度の流動性はあった方が、自治会の活動が活発になるということを意味している。

表 2-2-7 自治会における運営上の困りごと

	調査数	自治会運営で困っていること						
		自治会の役員のなり手不足	会員の高齢化	自治会行事への住民の参加の少なさ	日中、留守の世帯が多い	予算の不足	未加入世帯の増加	自治会のルールを守らない住民の存在
合計	259	59.8	49.0	38.6	24.7	22.8	20.8	16.6
多	48	62.5	∴ 60.4	∴ 47.9	27.1	▽ 8.3	∴ 29.2	△ 29.2
中	68	64.7	∴ 41.2	41.2	∴ 32.4	23.5	△ 32.4	∴ 23.5
少	138	57.2	50.0	34.8	20.3	∴ 28.3	▽ 13.0	▽ 9.4

	調査数	自治会運営で困っていること						
		加入世帯の家族構成が把握できない	集会所がない/狭い/不便	行政との関係(依頼の多さ等)	他の自治会との交流が少ない	行政以外の団体との関係(負担金等)	世代間のズレ	運営のための経験や智恵が足りない
合計	259	16.2	15.1	14.7	13.5	10.4	10.4	9.3
多	48	20.8	∴ 22.9	20.8	12.5	12.5	△ 20.8	4.2
中	68	20.6	11.8	13.2	16.2	▽ 2.9	10.3	13.2
少	138	13.0	14.5	13.8	13.0	∴ 13.8	7.2	9.4

	調査数	自治会運営で困っていること						
		まとめ役がない、力不足	構成世帯数の少なさによる障害	伝えるべき情報が伝わっていない	単身世帯数の多さによる障害	住民間の摩擦	どんな情報を伝えればよいかわからない	困っていることはない
合計	259	7.7	6.2	4.2	2.7	2.7	1.5	3.9
多	48	4.2	4.2	6.3	∴ 6.3	△ 8.3	-	∴ -
中	68	10.3	∴ 1.5	7.4	2.9	-	↑ 4.4	2.9
少	138	8.0	∴ 9.4	2.2	1.4	2.2	0.7	5.8

自治会運営上の困りごとをみると(表 2-2-7)、他の市とほぼ同様に「役員のなり手不足」(59.8%)、「会員の高齢化」(49.0%)、「行事への住民の参加が少ない」(38.6%)、の三項目が高い結果となっている。リソース別での特徴をあげると、「多」では「会員の高齢化」(60.4%)、「住民の参加の少なさ」(47.9%)、「未加入世帯の増加」「ルールを守らない住民の存在」(29.2%)等、多数ある。「中」については、「留守の世帯が多い」

自治会運営上の困りごとをみると(表 2-2-7)、他の市とほぼ同様に「役員のなり手不足」(59.8%)、「会員の高齢化」(49.0%)、「行事への住民の参加が少ない」(38.6%)、の三項目が高い結果となっている。リソース別での特徴をあげると、「多」では「会員の高齢化」(60.4%)、「住民の参加の少なさ」(47.9%)、「未加入世帯の増加」「ルールを守らない住民の存在」(29.2%)等、多数ある。「中」については、「留守の世帯が多い」

「未加入世帯の増加」(32.4%)等がある中で、「どんな情報を伝えればよいかわからない」(4.4%)といった情報共有と発信に関する項目が多い。「少」は「予算の不足」(28.3%)、「行政遺体の団体との関係」(13.8%)、「構成世帯数の少なさによる障害」(9.4%)となっており、リソース別に共通の問題があるなかで、こうした差異も存在する。

次に自治会の活動内容について確認する(表2-2-8)。この変数は活動リソースに組み込まれているため、リソースの多寡による差をみることにする。

表2-2-8 自治会活動内容

	調査数	自治会で実施している活動							
		街灯等の設備管理	地域の清掃美化	ごみ処理収集協力	集会所等の施設管理	資源・廃品回収	公園・広場の管理	私道の管理	防犯パトロール
合計	259	80.7	78.4	73.0	64.5	56.4	49.8	27.4	26.6
多	48	▲ 97.9	▲ 97.9	△ 83.3	↑ 77.1	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 50.0	▲ 54.2
中	68	79.4	79.4	67.6	70.6	50.0	△ 58.8	32.4	▲ 44.1
少	138	△ 75.4	▽ 71.0	71.0	↓ 56.5	52.2	▼ 37.0	▽ 18.1	▼ 8.0
差(多一少)		22.5	26.9	12.3	20.6	22.8	38.0	31.9	46.2

	調査数	自治会で実施している活動						
		高齢者福祉	交通安全対策	防火パトロール	青少年教育・育成	学童保育の支援	バザー	乳幼児保育の支援
合計	259	23.6	19.7	18.1	15.4	14.3	5.8	3.9
多	48	▲ 52.1	▲ 50.0	▲ 43.8	▲ 35.4	▲ 31.3	△ 12.5	△ 10.4
中	68	27.9	22.1	22.1	↑ 23.5	17.6	7.4	5.9
少	138	▼ 10.9	▼ 7.2	▼ 7.2	▼ 5.1	▽ 7.2	↓ 2.2	↓ 0.7
差(多一少)		41.2	42.8	36.6	30.3	24.1	10.3	9.7

いわき市の自治会で実施している活動に多いのは、「街灯等の設備管理」(80.7%)、「地域の清掃美化」(78.4%)、「ごみ処理収集協力」(73.0%)といずれも7割以上であり、これらの項目が上位なのは、福島市や盛岡市等の他市の調査結果と同様な傾向である。

リソースによる差が大きいものをみると、「防犯パトロール」(46.2pt)、「交通安全対策」(42.8pt)、「高齢者福祉」(41.2pt)であり、いずれもふだんの生活のリスクまわりに関わることである。

表2-2-9 自治会の実施行事

	調査数	自治会で実施している行事							
		自治会の総会	神社祭礼	新年会・忘年会	研修会・講習会	盆踊り・夏祭り	運動会	運動会以外の体育活動	
合計	259	84.6	47.1	27.4	19.7	19.3	15.4	15.1	
多	48	△ 97.9	52.1	△ 41.7	▲ 35.4	▲ 37.5	△ 27.1	↑ 25.0	
中	68	85.3	44.1	25.0	↑ 27.9	22.1	16.2	20.6	
少	138	↓ 79.0	47.1	△ 21.7	▼ 9.4	▼ 10.1	△ 10.9	▽ 7.2	

	調査数	自治会で実施している行事						
		食事会・飲み会	冠婚葬祭	宿泊旅行	花見	映画上映・演劇鑑賞	ラジオ体操	成人式
合計	259	12.4	8.9	6.9	3.5	3.1	1.9	0.8
多	48	16.7	↑ 16.7	△ 12.5	2.1	4.2	2.1	2.1
中	68	10.3	8.8	△ 13.2	2.9	△ 7.4	1.5	-
少	138	12.3	6.5	▽ 1.4	4.3	-	1.4	0.7

自治会で実施している行事をみると(表2-2-9)、「自治会の総会」が84.6%と一番多く、ついで「神社祭礼」は47.1%であり、他は3割にも満たない数値である。

リソース別では「多」と「少」の落差が顕著であるが、特に大きいのは「盆踊り・夏祭り」(27.5pt)や「研修会・講習会」(26.0pt)等のイベントである。

表 2-2-10 自治会予算

	収入(総額)		支出(総額)	
	調査数	千円	調査数	千円
合計	189	2264.37	181	1938.40
多	38	▲ 4243.82	37	▲ 3661.81
中	52	2453.54	51	2166.02
少	96	▼ 1384.73	91	▼ 1111.16

自治会の予算を見ていくと(表 2-2-10)、回答者ベースでは年間収入は226万円、支出は194万円である。リソース別では、他市の調査においてリソースの多寡と予算規模に相関があるように、いわき市でも同様の傾向(収入では多:424万円、中:245万円、少:138万円、支出では多:366万円、中:217万円、少:111

万円)が確認できる。

自治会でどんな組織が構成されているのだろうか。表 2-2-11 によれば、一番多いのは「子供育成会」(14.3%)であり、次いで「氏子会・檀家組織」(12.0%)、「防犯協会」(10.4%)である。他に「老人クラブ」、「民生・児童委員会」、「婦人会」、「消防団(分団)」等についても、リソースが多いところほど構成されており、組織構成率がリソースの多寡に依存するのは他の市と同様である。

表 2-2-11 自治会構成組織

	調査数	自治会で構成されている組織・団体							
		子供育成会	氏子会・檀家組織	防犯協会	老人クラブ	民生・児童委員会	消防団(分団)	婦人会	青年団
合計	259	14.3	12.0	10.4	10.0	8.9	8.5	7.3	6.2
多	48	▲ 41.7	△ 22.9	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 29.2	△ 18.8	▲ 27.1	▲ 18.8
中	68	13.2	14.7	14.7	13.2	8.8	10.3	5.9	8.8
少	138	▼ 4.3	▽ 6.5	▼ 2.2	▼ 2.9	▼ 2.2	▽ 3.6	▼ 0.7	-

	調査数	自治会で構成されている組織・団体							
		体育協会	社会福祉協議会	少年輔導委員会	農協・漁業	講	商工会・商店会	生協	その他
合計	259	5.0	4.6	2.7	1.5	1.5	1.2	0.4	0.8
多	48	↑ 10.4	8.3	▲ 10.4	2.1	2.1	↑ 4.2	↑ 2.1	2.1
中	68	∴ 8.8	↑ 8.8	2.9	2.9	-	-	-	1.5
少	138	↓ 1.4	▽ 0.7	-	0.7	2.2	-	-	-

次に自治会独自の情報発信についてみると(表 2-2-12)、「国や自治体が発行する広報誌の内容」(79.9%)、「役員会等に関する情報」(76.8%)、「防犯に関する情報」(61.0%)、「防災に関する情報」(59.5%)が約6割以上となっている。リソースが多いところほど様々な情報を発信しており、「中」において「防犯・防災」に関しては積極的に発行しており、情報発信がリソース形成に影響を与えていることがわかる。

表 2-2-12 自治会情報発信状況

	調査数	自治会での情報発信							
		国や自治体が発行する広報誌の内容	役員会、例会、総会に関する情報	防犯に関する情報	防災に関する情報	まちづくり全般に関する情報	婦人会、老人会などに関する情報	冠婚葬祭に関する情報	セーラなどの近隣の買い物情報
合計	259	79.9	76.8	61.0	59.5	44.4	25.5	20.1	4.6
多	48	↑ 89.6	△ 89.6	▲ 81.3	▲ 81.3	∴ 54.2	△ 39.6	∴ 29.2	6.3
中	68	82.4	80.9	∴ 69.1	∴ 67.6	38.2	25.0	14.7	2.9
少	138	76.1	↓ 70.3	▼ 50.0	▼ 47.8	44.2	21.0	18.8	5.1

表 2-2-13 市からの広報配布・依頼業務

	調査数	役所からの広報配布や依頼業務 についてどう対処するか			
		当然のこととして積極的に協力している	果たすべき義務として協力している	最低限のことのみ協力している	原則として協力していない
合計	259	49.3	33.3	1.9	1.9
多	48	46.5	27.9	2.3	2.3
中	68	55.4	28.6	1.8	1.8
少	138	46.7	39.0	1.9	1.0

市からの広報に関する連携への考え方を見ると(表 2-2-13)、「当然のこととして積極的に協力している」が約5割となっているが、リソース別では差がなく、市との情報発信の連携に関しては温度差が見られないことがわかる。

表 2-2-14 情報伝達や共有の評価

	調査数	情報伝達や共有の現状			
		十分に伝達・共有されている	伝達や共有されている	あまり伝達・共有されていない	まったく伝達・共有されていない
合計	259	26.6	51.0	13.5	0.4
多	48	31.3	47.9	16.7	-
中	68	27.9	51.5	14.7	-
少	138	23.9	52.2	12.3	0.7

こうした情報伝達や共有に関する自治会長の評価はどうなっているだろうか(表 2-2-14)。全体で見ると、「十分に伝達・共有されている」が26.6%、「伝達や共有されている」が51.0%と8割近くが現状の伝達・共有を評価していることがうかがえる。また、リソース別では差はないことがわかった。

これまで自治会における基礎的な活動やそれを裏付ける組織形成、予算規模などを概観してきたが、次は「防犯」、「安全・安心まちづくり」、「防災」、「高齢者福祉」等といった視点による地域づくりへの取組状況について確認する。

表 2-2-15 防犯に向けた組織的取組

	調査数	防犯のための組織的な取組み					
		防犯灯・街路灯の設置	回覧板やチラシによる防犯情報の共有	防犯パトロールの実施	小・中学校との情報交換	声かけの実施	公園等の見通し、見晴らしの改善
合計	259	80.3	63.7	43.2	39.4	30.9	18.9
多	48	△ 91.7	70.8	▲ 68.8	▲ 64.6	▲ 50.0	△ 31.3
中	68	83.8	69.1	▲ 58.8	45.6	35.3	△ 29.4
少	138	↓ 74.6	∴ 58.0	▼ 25.4	▼ 26.8	▽ 21.7	▼ 9.4

	調査数	防犯のための組織的な取組み					
		防犯セミナー・講習会等への参加	不審者に遭遇したときの連絡先・駆け込み先	防犯マップの作成	監視カメラの設置	携帯電話やネットによる防犯情報の共有	ひとつもない
合計	259	14.7	14.3	3.9	3.5	2.7	3.1
多	48	▲ 35.4	∴ 20.8	6.3	4.2	-	-
中	68	11.8	19.1	4.4	△ 8.8	4.4	-
少	138	▽ 8.0	↓ 8.7	2.9	↓ 0.7	2.9	↑ 5.8

防犯の組織的な取組として多いのは(表 2-2-15)、「防犯灯・街路灯の設置」(80.3%)、「防犯の情報の共有」(63.7%)、「防犯パトロールの実施」(43.2%)、「小中学校との情報交換」(39.4%)等が約4割以上の項目である。因みに「声かけの実施」については、秋田市や仙台市の結果で見られたようにリソースの多寡による実施率の差が大きい(多:50.0%、中:35.3%、少:21.7%)。「中」においても全体と比べて多い取組は「防犯パトロール」(58.8%)、「見通し、見晴らしの改善」(29.4%)、「監視カメラの設置」(8.8%)であり、防犯に対する取組についてもリソースの形成に大きく依存していることがわかる。

「中」においても全体と比べて多い取組は「防犯パトロール」(58.8%)、「見通し、見晴らしの改善」(29.4%)、「監視カメラの設置」(8.8%)であり、防犯に対する取組についてもリソースの形成に大きく依存していることがわかる。

表 2-2-16 まちづくりに向けた組織的取組

調査数	安全・安心なまちづくりのための取組み						
	防犯灯・街路灯の整備	防犯パトロールの強化・連携	防犯活動に関する情報提供	犯罪発生状況の情報提供	防犯キャンペーンの実施	防犯のための講習会の開催	
合計	259	86.1	46.7	39.4	35.5	29.3	26.6
多	48	△ 97.9	▲ 68.8	△ 54.2	△ 50.0	▲ 47.9	▲ 45.8
中	68	91.2	△ 58.8	39.7	33.8	25.0	26.5
少	138	▽ 79.7	▼ 31.9	∴ 34.1	31.2	24.6	↓ 20.3

調査数	安全・安心なまちづくりのための取組み					
	防犯活動の組織化の支援	防犯活動のリーダー育成	護身の知識・技術の提供	自治体の安全・安心条例の制定	監視カメラの設置・整備	
合計	259	22.8	19.7	9.7	8.1	7.7
多	48	↑ 33.3	∴ 27.1	↑ 16.7	8.3	4.2
中	68	22.1	22.1	11.8	8.8	11.8
少	138	18.8	∴ 15.2	∴ 5.8	5.8	7.2

(58.8%)であり、自治会員の動員が鍵になるといえる。

表 2-2-17 大震災に向けた組織的取組

調査数	大地震等に備えての対策					
	近くの学校や公園等避難する場所を決めている	市や消防署が主催している防災訓練や講演に積極的に参加している	消火器、懐中電灯、医薬品等の準備を住民に呼びかけている	高齢者世帯・子どもの状況把握に努めている	住民間の連絡方法等を決めている	
合計	259	40.2	39.4	24.3	17.8	16.6
多	48	△ 56.3	45.8	△ 37.5	△ 29.2	↑ 27.1
中	68	∴ 48.5	↑ 50.0	∴ 32.4	∴ 25.0	20.6
少	138	▽ 30.4	▽ 31.2	▼ 14.5	▼ 8.7	▽ 10.1

調査数	大地震等に備えての対策					
	防災に関するセミナーや講演を開く等して啓蒙活動を行っている	食料品や飲料水の備蓄を住民にすすめている	倒壊を防止するよう住民に呼びかけている	地震保険に加入するよう住民に働きかけている	とくに何もしていない	
合計	259	15.8	12.0	5.8	1.9	26.6
多	48	△ 29.2	▲ 25.0	▲ 16.7	△ 6.3	▼ 8.3
中	68	13.2	8.8	7.4	1.5	↓ 17.6
少	138	∴ 11.6	∴ 8.0	▽ 0.7	0.7	▲ 37.7

最後に福祉まちづくりについての取組状況について確認する(表 2-2-18)。全体では「高齢者との交流イベントなどの実施」(35.1%)、「高齢者の生活支援」(22.4%)、「福祉まちづくりに関する情報発信」(18.5%)が上位3項目であり、これについてはリソース「多」とそれ以外のセグメントとの差が大きく、「防犯」や「防災」に比べると、より高いリソースが要求されることがうかがえる。

一部防犯の項目と重なるが、安全・安心なまちづくりへの取組状況を見てみると(表 2-2-16)、「防犯灯・街路灯の整備」(86.1%)が圧倒的に多く、「防犯パトロールの強化・連携」(46.7%)や「防犯活動に関する情報提供」(54.2%)等についてはいずれも5割未満である。これも先と同様に、リソースの多寡と取組に正の相関があるのだが、「中」について多いのは「防犯パトロールの強化・連携」

続いて大震災に向けた取組であるが(表 2-2-17)、多いのは「避難する場所を決める」(40.2%)、ついで「防災訓練や公園に積極的に参加している」(39.4%)の2項目が4割程度であり、それ以外は2割前後の実施となっている。ここでもリソースの多寡が対策の多寡さに影響を与えていることがわかるが、他と大きく異なるのは、「中」においても「多」と同じような対策を講じている。それでも、「住民間の連絡方法」、「啓蒙活動」、「食料品等の備蓄をすすめる」、「倒壊防止を呼びかけ」、「地震保険加入」等、よりレベルの高い対策については行っておらず、この部分が差異としてあらわれているともいえる。



表2-2-18 福祉のまちづくりに向けた組織的取組

	調査数	福祉のまちづくり活動							
		高齢者との交流イベントなどの実施	高齢者の生活支援	福祉まちづくりに関する情報発信	福祉まちづくりに関する勉強会実施	子育て家庭への支援	障害者の生活支援	障害者との交流イベントなどの実施	バリアフリー化への働きかけ
合計	259	35.1	22.4	18.5	12.7	12.0	8.5	8.1	5.8
多	48	▲ 62.5	△ 37.5	△ 31.3	△ 22.9	↑ 20.8	12.5	△ 16.7	△ 12.5
中	68	41.2	20.6	19.1	7.4	10.3	11.8	7.4	4.4
少	138	▼ 22.5	18.1	↓ 13.0	11.6	8.7	5.8	5.8	4.3

(2) 自治会会長リソース

会長リソースの作成方法は(1)と同様であり、以下にそれを示す。

		会長在任年数		
		多	中	少
世帯の地付き	古	1	3	6
	中	2	5	8
	新	4	7	9

図2-2-2 会長セグメントの考え方

ここでの操作は活動リソースのように3つの変数ではなく、「会長の在任年数」と「会長家族の地付きの程度」という2つであるために、1回のステップだけである。因みに「地付きの程度」であるが、松本・吉原(2009)と同様に、「古」「中」「新」をそれぞれ「戦前」「昭和20年代～40年代」「昭和50年代以降」としている。

こうした操作にて変数を作成して、そのリソース分布を見ると、多：35.1%、中：34.0%、少：23.2%、不明：7.7%となった。

表2-2-19 会長手当で支給実績

	調査数	役員定額手当で(会長)		活動ごとの手当で(会長)	
		無し	有り	無し	有り
合計	240	17.1	79.2	76.3	14.6
多	82	20.7	76.8	79.3	12.2
中	85	10.6	↑ 87.1	75.3	14.1
少	58	20.7	75.9	74.1	19.0

表2-2-20 会長の手当て/持ち出し割合

	調査数	手当てと持ち出しの割合(会長)			
		手当ての方が多い	同じくらい	持ち出しの方が多い	わからない
合計	240	15.0	20.4	31.7	12.9
多	82	9.8	25.6	37.8	12.2
中	85	20.0	20.0	31.8	10.6
少	58	17.2	15.5	24.1	↑ 20.7

次には会長への手当などの支給状況について、まず役員定額手当についてみると(表2-2-19)、いわき市は「手当で有り」が79.2%であり、会長リソース別では「中」が大きいことがわかる(多：76.8%、中：87.1%、少：75.9%)。活動ごとの手当については「無し」が76.3%であり、これについては多：79.3%、中：75.3%、少：74.1%というように、リソース別での差はみられない。

会長の手当てと持ち出しの割合についてみると(表2-2-20)、「持ち出しの方が多い」は31.7%であり、いわき市の会長の持ち出しは手当てよりも多いことがわかる。リソース別でみると、リソースが多いほど持ち出しの方が多く(多：37.8%、中：31.8%、少：24.1%)、たとえば盛岡市とは逆の結果であることがわかる。

会長の選出方法について確認すると（表 2-2-21）、「前会長からの指名」（32.0%）、「選考委員会等による推薦」（28.2%）、「役員会での互選」（22.8%）、「総会の話し合いで推された」（21.2%）である。リソース別で特徴があるのは、「多」では「総会の話し合いで推された」（28.6%）、「中」は「持ち回り」（18.2%）、「少」は「前会長からの指名」（41.7%）であり、いわき市の自治会では多数の会員から選出された会長がリーダーシップを持つ傾向にあるといえる。

表 2-2-21 会長選出方法

	調査数	会長はどのように選ばれたか							
		前会長からの指名	選考委員会等による推薦	役員会での互選	総会の話し合いで推された	持ち回り(当番制)	総会で立候補	抽選(くじ引き)	その他
合計	259	32.0	28.2	22.8	21.2	13.5	5.0	0.8	2.3
多	91	34.1	24.2	19.8	↑ 28.6	↓ 6.6	5.5	-	1.1
中	88	∴ 25.0	31.8	26.1	23.9	∴ 18.2	5.7	1.1	2.3
少	60	∴ 41.7	35.0	23.3	▽ 10.0	15.0	1.7	1.7	∴ 5.0

自治会会長の1任期（表 2-2-22）は「二年以上」の66.0%が一番多いものの、これは青森市や山形市が8割前後と比較すると、盛岡市と同様にやや少ないことがわかる。また、「1年」は20.8%である。リソース別にみると、リソースが多い会長の任期は「2年」が一番多く（多：75.8%、中：58.0%、少：65.0%）、逆に少ないのは「1年」であり（多：9.9%、中：35.2%、少：21.7%）であり、他の市と同様、ある程度の任期が会長のリーダーシップ形成に必要であることがうかがえる。

表2-2-22 会長任期

	調査数	会長の1任期は何年か						
		半年	一年	二年	三年	三年より長い	決まっていない	わからない
合計	259	-	20.8	66.0	1.9	1.2	5.0	-
多	91	-	▽ 9.9	△ 75.8	1.1	2.2	4.4	-
中	88	-	▲ 35.2	∴ 58.0	2.3	-	4.5	-
少	60	-	21.7	65.0	3.3	1.7	6.7	-

表2-2-23 予算案作成方法

	調査数	自治会の予算案はどのように作成されているか					
		担当役員が素案を示し役員会で審議の上、作成	会長が素案を示し役員会で審議の上、作成	役員会で協議して一から作成	会長がすべて作成	担当役員がすべて作成	作成していない
合計	259	38.6	27.8	19.7	9.7	8.9	8.5
多	91	41.8	23.1	22.0	6.6	∴ 13.2	5.5
中	88	37.5	33.0	15.9	13.6	↓ 3.4	6.8
少	60	45.0	31.7	18.3	11.7	11.7	10.0

予算案作成方法について確認すると（表 2-2-23）、一番多いのは「担当役員が素案を示し、役員会で審議、作成」の38.6%であり、他の市と同様の傾向である。リソース別でみると、リソースが多い会長は「担当役員

がすべて作成」（13.2%）以外、リソースの多寡による差異はさほど見られなかった。

表2-2-24 会長が抱く自治会の未来イメージ

	調査数	いわき市の自治会の未来イメージについてどう考えるか					その他	わからない
		地域社会の役割が高まり、自治会が増える	地域社会の役割が高まるが、自治会のごとは変わらない	地域社会の役割は変わらず、自治会のごとも変わらない	地域社会の役割は変わらないが、自治会のごとは増える	地域社会の役割は変わらない		
合計	259	44.4	18.1	9.3	11.2	-	10.0	
多	91	42.9	↑ 25.3	8.8	9.9	-	8.8	
中	88	50.0	13.6	9.1	12.5	-	9.1	
少	60	43.3	15.0	11.7	13.3	-	13.3	

会長が抱く自治会の未来イメージを見ていくと(表2-2-24)、会長全体の約4割が「地域社会の役割が高まり、自治会の仕事が増える」と回答しており、青森市、秋田市や盛岡市と同様に、自治会の重要性が高まると考えている会長が多いことがわかる。

また、リソース「多」では「地域社会の役割が高まるが、自治会の仕事は変わらない」(25.3%)という特徴も見られた。

表2-2-25 会長が考える行政との今後の関係

	調査数	これからの市役所行政との関係についてどう考えるか				
		これまで関係は強く、これからも強い	これまで関係は深かったが、これからは弱くなる	これまで、これからは関係は弱い	これまで関係は弱かったが、これからは強くなる	わからない
合計	259	58.7	8.1	5.4	8.5	12.7
多	91	61.5	8.8	5.5	6.6	13.2
中	88	60.2	9.1	4.5	9.1	12.5
少	60	65.0	↓ 1.7	6.7	11.7	11.7

会長は自治会と行政との関係をどう考えているのだろうか(表2-2-25)。行政との関係は「これまで関係は強く、これからは強い」と回答する人は58.7%であり、半数以上の会長は行政との関係強化を想定している。また、リソースによる差異は見られない。

表2-2-26 会長が考える自治会組織の未来像

	調査数	自治会は今後どんな組織になるか			
		これまで通り、地縁的組織の代表的組織として続く	これまで関係は深かったが、これからは弱くなる	その他の組織	わからない
合計	259	70.3	16.6	0.8	8.5
多	91	71.4	18.7	1.1	7.7
中	88	75.0	14.8	-	8.0
少	60	68.3	18.3	1.7	10.0

最後に会長が考える自治会組織の未来像について確認する(表2-2-26)。一番多かったのは、「これまで通り、地縁的組織の代表的組織として続く」(70.3%)であり、他の市と同様に約7割の回答率になっている。また、リソース別には差がないことも確認できた。

次に会長の基本属性について確認する(表2-2-24)。性別について、他の市と同様に会長の9割以上の男性であり、年代も60代以上が9割と、他の市よりも高齢化が進んでいる。また、リソースが多いほど会長の年齢が高いのは他の市と同様な傾向である。

表2-2-27 会長の性別・年齢

	調査数	会長の性別		会長の年齢						
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上
合計	259	95.4	1.5	-	-	1.2	4.6	52.1	34.4	4.6
多	91	∴ 98.9	1.1	-	-	-	∴ 1.1	49.5	∴ 41.8	∴ 7.7
中	88	∴ 98.9	1.1	-	-	-	3.4	↑ 61.4	30.7	4.5
少	60	96.7	3.3	-	-	∴ 3.3	▲ 11.7	50.0	33.3	1.7

表2-2-28 会長宅の家族構成

	調査数	会長の家の家族構成						
		非高齢者のみの核家族世帯	高齢者のみの核家族世帯	非高齢者と高齢者からなる親族世帯	非高齢者の単身世帯	高齢者の単身世帯	二世帯以上がともに居住	その他
合計	259	10.8	27.0	39.0	0.8	3.1	12.0	1.2
多	91	▽ 4.4	31.9	38.5	-	4.4	↑ 17.6	-
中	88	10.2	22.7	△ 51.1	-	2.3	10.2	2.3
少	60	▲ 23.3	31.7	↓ 26.7	△ 3.3	3.3	6.7	1.7

会長宅の家族構成について見ると(表2-2-28)、「非高齢者と高齢者からなる親族世帯」が39.0%とボリュームゾーンとなっており、他の市とは異なる傾向を示している。

リソースの多寡と関係がみうけられるのは、「多」は「二世帯以上がともに居住」(多:17.6%、中:10.2%、少:6.7%)、「中」は「非高齢者と高齢者からなる親族世帯」(多:38.5%、中:51.1%、少:26.7%)、「少」は「非高齢者のみの核家族世帯」(多:4.4%、中:10.2%、少:23.3%)であり、リソースごとに特徴があることがわかる。他の市と比べると、「高齢者のみの核家族世帯」に住まう会長のリソースが(相対的に)高いものの、世帯において年代を超えた関係の有無がリソースにある程度の影響を与えているといえるのではないかと。

表2-2-29 各市会長が兼務する役職数

	調査数	現在の役職個数	過去の役職個数
合計	259	2.69	1.91
多	91	▲ 3.27	▲ 2.62
中	88	2.76	1.77
少	60	▽ 2.12	▽ 1.32

会長が兼務する役職数を確認することにする(表2-2-29)。いわき市は全体平均で兼職は約3つであり、青森市や盛岡市の4つと比べると1つ少ない。リソース別でみると、多:3.27、中:2.76、少:2.12と、リソースが多い会長ほど兼務数が多く、他の市でも見られる会長への「トップ・ヘヴィ」がリソースの多寡においても現れている。

最後に会長が個人的に関わっている地域活動を確認する(表2-2-30)。一番多いのは「何もしていない」(40.2%)であり、ついで「地域の任意団体の活動に積極的に顔を出している」(23.9%)である。リソース別について、どの市でも共通しているのはリソースが少ない会長は「何もしていない」が多く(多:23.1%、中:45.5%、少:61.7%)、リソースが多い会長ほど、「地域の任意団体が活動しやすいように調整や働きかけをしている」(多:50.5%、中:28.4%、少:20.0%)、「調整や働きかけをしている」(多:31.9%、中:26.1%、少:10.0%)「ポケット・マネーでの支援」(多:15.4%、中:6.8%、少:1.7%)であり、他の市と比べても地域活動に積極的に関与していることがわかる。

表2-2-30 会長が個人的に関わっている地域活動

	調査数	会長の個人的な活動						
		地域の任意団体の活動に積極的に顔を出している	地域の任意団体が活動しやすいように調整や働きかけをしている	ポケット・マネーで地域の団体や活動を支援している	自らが発起人となって地域イベントを開催している	自らが発起人となって地域組織・NPOなどを立ち上げている	その他	とくに何もしていない
合計	259	33.2	23.9	8.5	8.1	1.2	4.6	40.2
多	91	▲ 50.5	↑ 31.9	△ 15.4	9.9	1.1	3.3	▼ 23.1
中	88	28.4	26.1	6.8	10.2	1.1	5.7	45.5
少	60	▽ 20.0	▽ 10.0	↓ 1.7	↓ 1.7	1.7	6.7	▲ 61.7

### 2.3 いわき市自治会のリソース分布

表 2-3-1 支所別でみた各リソース偏差値

	活動	会長	ンセグ メ
平	59.8	44.2	4
小名浜	51.8	38.8	4
勿来	54.1	53.2	1
常磐	60.6	34.1	4
内郷	62.1	70.3	1
四倉	42.6	55.1	2
遠野	56.3	41.1	4
小川	36.6	43.4	3
好間	45.8	50.8	2
三和	62.1	47.7	4
田人	33.5	54.0	2
川前	41.8	63.3	2
久之浜・大久	42.9	54.0	2

ここでは前節で確認した自治会に関する「活動リソース」と「会長リソース」をかけあわせた「自治会リソース」を作成し、その分布を見ていくことにする。ここで、2.2 で議論した会長リソースと活動リソースの「多」、「中」、「少」のそれぞれに「3」、「2」、「1」と得点化した上で、各地区別に両リソースを集計し偏差値化したものが表 2-3-1 になる。そして、この偏差値 50.0 を境界にして「多」「少」として、その組み合わせをセグメント 1~4 としている。そうした操作によって得られた各リソースの構成比をみると、(活動リソース、会長リソース) が (多、多) は 15.4%、(少、多) は 22.4%、(少、少) は 29.0%、(多、少) は 32.8%、不明は 0.4% である。

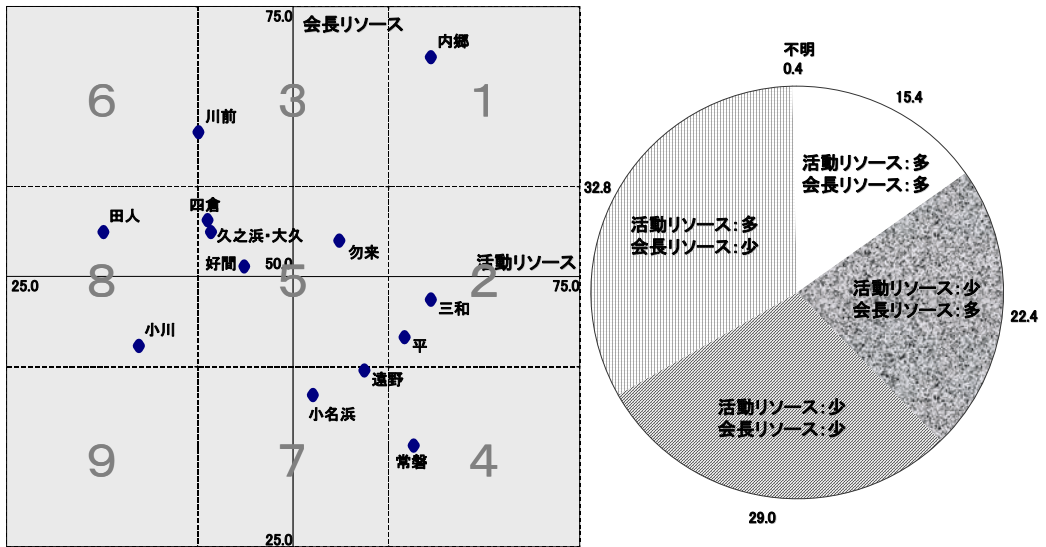


図 2-3-1 いわき市自治会の支所別リソース分布とその比率(N=259)

各セグメントが抱える課題をみる前に、それらの基本属性を確認する (表 2-3-2)。加入世帯数をみると、(多、多) は 266 戸、(少、多) は 135 戸、(少、少) は 246 戸、(多、少) は 311 戸であり、活動リソースが多い自治会ほど加入世帯数は多い。世帯加入率について、(少、多) が 94.8% と最も多く、逆に (少、少) が 89.8% と一番小さい。全体との有意な差が存在するものの、セグメントの差は 5pt 程度である。

表 2-3-2 セグメント毎の加入世帯数・加入率

	加入世帯数		世帯加入率	
	調査数	戸	調査数	平均
合計	254	246.06	246	91.91
活動:多 会長:多	40	265.88	40	90.63
活動:少 会長:多	55	▼ 135.40	53	↑ 94.81
活動:少 会長:少	74	246.23	72	△ 89.79
活動:多 会長:少	84	△ 310.65	80	92.50

	調査数	自治会への世帯加入率						
		全戸加入	90%以上加入	70~90%加入	50~70%加入	30~50%加入	30%未満	わからない
合計	259	32.8	39.4	18.1	3.9	0.4	0.4	2.7
活動:多 会長:多	40	△ 47.5	△ 27.5	12.5	△ 10.0	△ 2.5	-	-
活動:少 会長:多	58	37.9	39.7	13.8	-	-	-	1.7
活動:少 会長:少	75	▼ 17.3	△ 46.7	↑ 26.7	5.3	-	-	2.7
活動:多 会長:少	85	36.5	37.6	16.5	2.4	-	1.2	4.7

自治会の発足時期であるが(表 2-3-3)、セグメントで特徴があるのは、(少、多)で「40年代以前」(計 60.3%)、(少、少)は「50年代」(12.0%)、(多、少)は「70年代」(9.4%)、「90年代」(7.1%)、「00年代」(4.7%)である。これらから、会長リソースが多い自治会ほど発足がある程度古い傾向にあるといえる。

表 2-3-3 セグメント毎の自治会発足時期

	調査数	自治会発足時期							
		1940年代以前	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	わからない
合計	259	49.0	6.2	6.9	4.2	5.8	3.5	2.3	19.7
活動:多 会長:多	40	47.5	5.0	7.5	2.5	10.0	5.0	-	17.5
活動:少 会長:多	58	↑ 60.3	3.4	5.2	1.7	-	-	3.4	24.1
活動:少 会長:少	75	42.7	△ 12.0	9.3	1.3	6.7	1.3	-	25.3
活動:多 会長:少	85	48.2	3.5	5.9	△ 9.4	7.1	↑ 7.1	△ 4.7	△ 12.9

表 2-3-4 セグメント毎の自治会予算規模

	収入(総額)		支出(総額)	
	調査数	千円	調査数	千円
合計	189	2264.37	181	1938.40
活動:多 会長:多	31	2163.16	30	1943.07
活動:少 会長:多	42	▼ 1196.76	39	▼ 1040.10
活動:少 会長:少	55	↑ 2793.27	54	↑ 2425.80
活動:多 会長:少	61	2573.98	58	2086.24

自治会の予算規模をみると(表 2-3-4)、収入では(少、少)自治会の予算規模が一番大きいことがわかる(多×多:216万円、少×多:120万円、少×少:279万円、多×少:257万円)。支出も同様に(少、少)が大きく、(多×多:194万円、少×多:104万円、少

×少:243万円、多×少:209万円)であった。

## 2.4 セグメントで見たいわき市自治会の課題

次にいわき市自治会運営上の課題について、4つのセグメントによる分析で見ていこう。セグメントに特徴的な項目を見ると(表 2-4-1)、(多、多)では「会員の高齢化」(60.0%)、(少、少)は「予算の不足」(30.7%)、「未加入世帯の増加」(29.3%)、「加入世帯の家族構

成が把握できない」(22.7%)、(多、少)は「自治会役員のなり手不足」(68.2%)、「行政との関係」(22.4%)である。このようにみると、活動・会長の両りソースが多いところでも「高齢化」という問題が顕現しており、リソースが少ないところでは最低限の活動を行う際の困りごとといえる。

表2-4-1 セグメント別でみた自治会運営上の困りごと

調査数	自治会運営で困っていること											
	自治会の役員へのなり手不足	会員の高齢化	自治会行事への住民の参加の少なさ	日中、留守の世帯が多い	予算の不足	未加入世帯の増加	自治会のルールを守らない住民の存在	加入世帯の家族構成が把握できない	集会施設がない/狭い/不便	行政との関係(依頼の多さ等)	他の自治会との交流が少ない	
合計	259	59.8	49.0	38.6	24.7	22.8	20.8	16.6	16.2	15.1	14.7	13.5
活動:多 会長:多	40	▽ 42.5	∴ 60.0	35.0	20.0	20.0	22.5	15.0	17.5	10.0	12.5	12.5
活動:少 会長:多	58	55.2	51.7	34.5	29.3	∴ 15.5	∴ 13.8	∴ 10.3	10.3	12.1	↓ 6.9	15.5
活動:少 会長:少	75	62.7	50.7	38.7	28.0	∴ 30.7	↑ 29.3	20.0	∴ 22.7	16.0	13.3	10.7
活動:多 会長:少	85	∴ 68.2	↓ 40.0	43.5	21.2	21.2	17.6	18.8	14.1	18.8	△ 22.4	15.3

調査数	自治会運営で困っていること											
	行政以外の団体との関係(負担金等)	世代間のズレ	運営のための経験や智慧が足りない	まとめ役がない、力不足	構成世帯数の少なさによる障害	伝えるべき情報が伝わっていない	単身世帯数の多さによる障害	住民間の摩擦	どんな情報を伝えればよいかわからない	役員内のあつれき	困っていることはない	
合計	259	10.4	10.4	9.3	7.7	6.2	4.2	2.7	2.7	1.5	0.8	3.9
活動:多 会長:多	40	12.5	12.5	7.5	5.0	-	5.0	2.5	2.5	-	-	2.5
活動:少 会長:多	58	12.1	8.6	8.6	5.2	3.4	3.4	3.4	3.4	-	-	↑ 8.6
活動:少 会長:少	75	9.3	12.0	6.7	8.0	9.3	5.3	1.3	2.7	-	↑ 2.7	2.7
活動:多 会長:少	85	9.4	9.4	12.9	10.6	7.1	3.5	3.5	2.4	2.4	-	2.4

次に自治会における生活上の困りごとについて確認する(表2-4-2)と、他の市と同様に「開発による住環境や自然環境の悪化」といった項目以外、セグメント毎の違いはあまりないことがわかった。

表2-4-2 セグメント別でみた自治会における生活上の困りごと

調査数	困ったこと										
	ゴミ処理の問題	移動や交通の問題	ひとり暮らしの高齢者への対応	治安・少年非行・風紀の悪化	集会所等文化交流施設の不足・老朽化	商売・スーパー等の買い物施設の不足	住民間のトラブル	土地問題(土地利用規制や共有地)	開発による住環境や自然環境の悪化	都市型災害に対する基盤整備の不足	
合計	259	60.6	42.5	42.1	29.7	28.6	27.8	27.8	25.5	23.9	23.9
活動:多 会長:多	40	67.5	45.0	37.5	35.0	30.0	27.5	30.0	30.0	25.0	25.0
活動:少 会長:多	58	↓ 50.0	50.0	43.1	24.1	32.8	32.8	32.8	25.9	22.4	24.1
活動:少 会長:少	75	66.7	41.3	37.3	30.7	32.0	25.3	25.3	26.7	∴ 30.7	24.0
活動:多 会長:少	85	60.0	37.6	48.2	30.6	22.4	27.1	25.9	22.4	18.8	23.5

調査数	困ったこと										
	病院等医療・福祉施設の不足	公園・運動場・体育施設等の不足	住宅の建て込み等の住宅問題	行政とのトラブル	幼児虐待などの子育て上の問題	民間企業とのトラブル	保育園・学校等育児・教育施設の不足	商店や工場を営んでいく上での障害	その他	困っていることはない	
合計	259	22.4	21.6	21.2	20.1	19.7	19.3	18.9	17.0	5.0	4.6
活動:多 会長:多	40	25.0	25.0	27.5	25.0	20.0	22.5	20.0	20.0	2.5	∴ 10.0
活動:少 会長:多	58	24.1	20.7	20.7	24.1	24.1	19.0	22.4	19.0	5.2	6.9
活動:少 会長:少	75	24.0	24.0	26.7	20.0	18.7	21.3	20.0	17.3	6.7	∴ 1.3
活動:多 会長:少	85	18.8	18.8	∴ 14.1	15.3	17.6	16.5	15.3	14.1	4.7	3.5

表2-4-3 セグメント別でみた負担に感じるもの

	調査数	負担に感じるもの			
		自治会単位の仕事・付き合い	自治会連合会単位の仕事・付き合い	行政からの依頼仕事	その他
合計	259	29.3	27.8	27.4	5.0
活動:多 会長:多	40	40.0	32.5	35.0	5.0
活動:少 会長:多	58	22.4	22.4	20.7	3.4
活動:少 会長:少	75	30.7	28.0	26.7	4.0
活動:多 会長:少	85	28.2	29.4	29.4	7.1

最後にセグメント毎の会長が負担に感じるものについて確認すると(表2-4-3)、(多、多い)で「自治会単位の仕事・付き合い」(40.0%)が多く、これは先の「トップ・ヘヴィ」にあるように、活動量の多さがリソースの多い自治会会長に負担を感じさせていることがここでもわかる。

## 2.5 支所別に見た諸問題の解決に向けた自治会の役割

本節では、いわき市自治会が抱える諸問題を「支所別」という地理的特性の次元でとらえ、問題解決の方途を探る。

### (1) リソースの地理的特性

図2-3-1と図2-5-1とあわせてみていくと、まずは両極の第一象限(多、多)と第三象限(少、少)について、(多、多)に分類される支所は内郷、勿来である。一方で(少、少)は

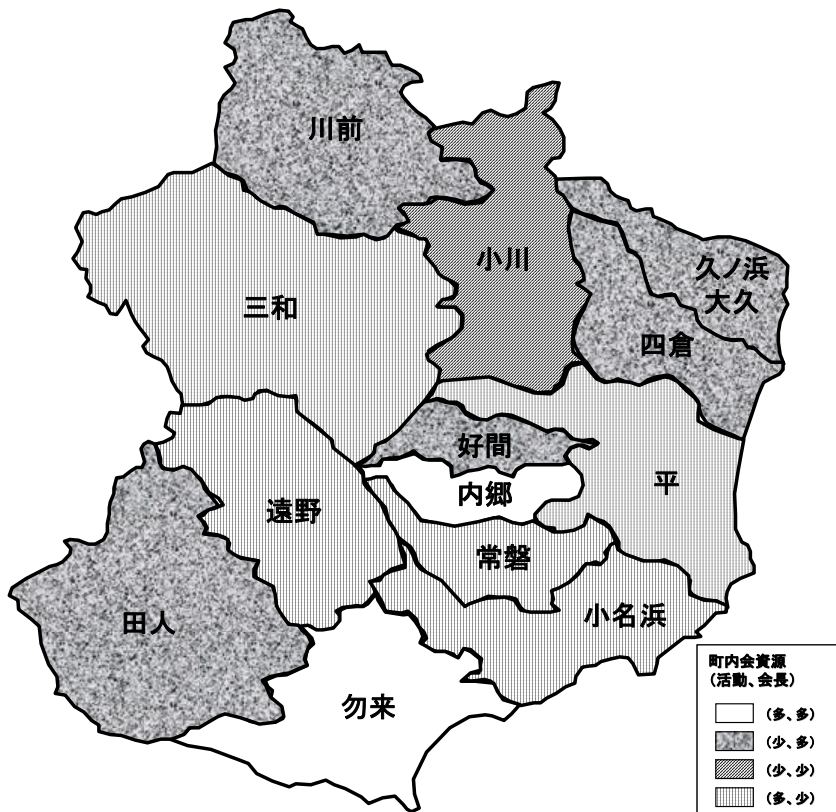


図2-5-1 4セグメントの布置状況(いわき市HPより筆者改変)

小川と、いわば中山間地にあたる場所である。その他に(少、多)は川前、四倉、田人、久之浜・大久、好間であり、(多、少)は三和、平、遠野、常磐、小名浜である。

こうした視点によれば、旧市部から構成されている平、内郷、小名浜、常磐、勿来支所は活動リソースが多く、会長のリーダーシップというよりは(もともと)住んでいる人た



ちによって得られている) 規模の大きさによるものと考えられる。一方、会長リソースが多いのは旧町部であることが多く、この場合は古くからの地付きの会長がリーダーシップを発揮している／発揮せざるを得ない状況になっており、これらから推察するに合併前のリソースがそのまま反映しているといえる。

表2-5-1 4セグメントの基本属性

		人口 人	世帯数 世帯	1世帯当 人/世帯
リソース	多、多	76,965	29,210	2.6
	少、多	37,350	13,592	2.7
	少、少	7,148	2,392	3.0
	多、少	219,939	83,560	2.6
いわき市計		341,402	128,754	2.7

以上のようにリソースは合併以前からのリソースによる偏在があることを確認できたが、ここで4つのセグメント別で人口と増減をみると、左の表2-5-1のようになる。この表からはセグメントによる違いは、(少、少)のセグメントの世帯当たりの人数がやや多いことを除けば、差はあまりないことがわかる。

自治会の活動リソースが少ない地区がいわき市中心からやや離れた／離れたところに位置しているという(三和、遠野を除いた)傾向は福島市や盛岡市の分析とほぼ同じ結果であり、活動と地理的特性に何らかの関係をもつことがうかがえる。しかしながら、他の市と若干、背景が異なる可能性として、昭和に行われた合併時のリソースがあり、それについては今後、さらなる考察を進めるべき点でもある。

## (2) 支所別の問題の解決に向けて

これまで自治会を活動と会長のリソースで、また2つの軸によってつくられるセグメントにより、自治会自身の活動や問題点を類型化した。本項では問題解決の方向性を見出すにあたって、まずはセグメント毎の課題と解決の方向性をまとめる。

いわき市自治会の課題と問題解決の方向性を調査結果をふまえてまとめると、図2-5-2になる。自治会全体の困りごとは「役員のなり手がいない」、「会員の高齢化」、「行事に対する住民参加が少ない」であり、生活上の問題点は「ゴミ処理」、「移動や交通」、「ひとり暮らしの高齢者への対応」である。これらがいわき市にある自治会が抱える共通の課題ということになる。これら課題に対しては、いわゆる「トップ・ヘヴィ」となって集中する会長や役員への負担軽減を行うことや、様々な世代が参加可能な行事・イベント等の活動を増やし、若い世代の認知と関心を高めることが必要だろう。また、市や自治会の予算上の問題があるため、「声かけ」等を手がかりにした、費用のかからない高齢者へのケア対策を講じる必要がある。

さて、活動リソース×会長リソースによる4セグメントから見るとどうなるだろうか。

(多、多)の自治会で(共通の課題にもあるが)特に強く現れているのが「会員の高齢化」といった問題である。このセグメントは活動の数が多いという意味で活発な自治会であり、かつリーダーたる会長も町内にはそれなりの力を発揮していると考えられる中で、会員の高齢化が立ち現れる要因の一つともいえるのは、現役世代にとって自治会活動は魅力のあるものではなく、むしろ避けたいものの一つといえるのだろう。こうした世代を活動に引き込むためには何らかの「仕掛け」が必要であろう。1章でも示したことであるが、忙しい現役世

代とのコミュニケーション手段として、携帯電話やインターネットの活用が考えられよう。一例をあげれば、理事会や総会に遠隔から参加できる等の工夫である。

どちらかのリソースが平均以上である（多、少）と（少、多）のセグメントを見てみよう。（多、少）で特徴的な課題は「役員のなり手不足」や「行政との関係」である。特に後者については行政との連携方法の工夫を模索する必要がある。

最後に（少、少）については、「予算の不足」、「未加入世帯の増加」、「加入世帯の家族構成が把握できない」、「役員内のあつれき」、生活上の問題では「開発による住環境や自然環境の悪化」等、特徴的な課題が数多く存在する。二つの方向をあげるならば、このセグメントの自治会は最低限の活動がなされていない可能性は強く、まずは連絡・伝達方法の工夫が必要と考えられる。それは従来のような回覧板のような手段ではなく、例えば、携帯電話へのメール配信といったインターネットを活用するのも一つであろう。また、自治会の古さや加入世帯数による規模の小ささについては、単独ではなく他の自治会との連携も視野に入れる必要があるかもしれない。

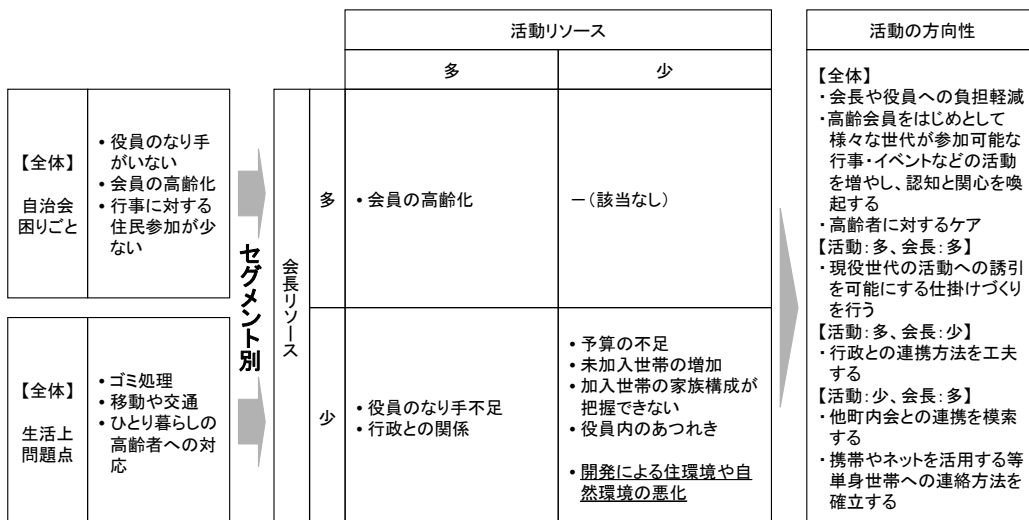


図 2-5-2 いわき市自治会の課題と問題解決の方向性(下線は生活上の問題)

以上のように、いわき市自治会が抱える課題を4つのセグメントの視点から捉え、その問題解決の方向性について検討した。

最後に課題をいくつかあげることにする。第一に、今回提示したリソースとそれによるセグメントは概念上のものであることと、(既存調査からの引き継ぎ上の問題で) それらの変数を規定するためのものとして設定されていないことである。この問題については、本報告書ではふれなかったが、『スキル調査』の中に組み込んだ『リーダーシップ調査』の分析結果を待たれたい。第二はこれらの変数とその結果の「リアリティ」に関する問題である。これについては、自治会や市の関係者へのヒアリングを行ったうえで、変数に関する議論を補強す

る必要がある。

最後に、「災害」の問題である。「はじめに」でも簡単に触れたことであるが、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震はいわき市にも甚大な被害を与えたが、広域合併市としてのいわき市は自治体として、その後の対応が適切であったかはやや疑問である。これはやはり平成に入ってから広域合併を行った宮城県石巻市等にも同様な問題が生じているようである。自治体のスタッフ不足をどう補うのか。その一つが自治会・町内会なのではなからうか。いわき市内の知人等に聞き取りをしても、自治会が積極的に被災後の支援活動に関わっていることを一筆者の知る限りにおいてはあながし聞かない。

このことは単に、防災マップをつくるだけで済ませるのではなく、「どこの自治会が」「どんな状態で」「何ができるか」というアビリティ＝能力の視点を組み込み、それを自治体や各自治会が緊急時に活用する必要があることを示しているのではなからうか。

#### 参考文献

- いわき市HP『市の統計』 <http://www.city.iwaki.fukushima.jp/tokei/004869.html>
- 松本行真、吉原直樹、2009、「自治会における諸問題の解決法に関する一考察」『ヘスティアとクリオ』No.8: 19-51
- 松本行真、2010、「福島市自治会における問題の所在」『地方都市における自治会の変容とその諸相—2009年福島市自治会・自治会調査結果報告書—』東北都市社会学研究会編: 21-48
- 松本行真、2011a、「盛岡市町内会における問題の所在」『地方都市における町内会の現状とゆくえ—2010年度盛岡市町内会・自治会調査結果報告書—』東北都市社会学研究会編
- 松本行真、2011b、「地域リーダーの防災観」吉原直樹編著『防災コミュニティの基層』御茶の水書房
- 松本行真、2011c、「防災コミュニティの人的資源と活動資源」吉原直樹編著『防災コミュニティの基層』御茶の水書房